

平成 21 年度 事業計画

平成 21 年度の活動指針として、研究活動、教育活動、社会貢献の三つの分野に分けて説明する。

では、学術討論集会（多賀実行委員長，名古屋）の実施，学術誌 JOS，情報誌「オレオサイエンス」の発行などであるが，重点課題は 2011 年に予定している「World Congress on Oleo Science & 29th ISF Congress (WCOS2011)」の準備であり，阿部組織委員長の下に結束して推進する。また，国際貢献では，ISF President に日本油化学会会長が就任の予定である。では，フレッシュマンセミナーや専門部会活動などを推進するとともに，重点課題として，学術討論集会（年会）への参加者，及び会員の増強を目的として，話題性のあるトピックスの編成や教育プログラムを強化するなど，年会のリニューアルに向けた将来計画を作成する。

では，油脂工業会館と共催する市民講座を実施する。また，重点課題は「石けん・洗剤アドバイザー認定制度（仮称）」の創生である。初年度は同プロジェクトチームを編成し，平成 22 年度の実現に向けて内規の整備をする。その他，「日本油化学会・女性科学者奨励賞（仮称）」の創設，平成 22 年度に申請を予定している公益社団法人への移行に伴う定款の整備なども重点課題として取り組む。

1 会務

1.1 総会

第 55 回通常総会を平成 21 年 3 月 31 日，油脂工業会館で開催する。平成 20 年度事業報告および収支報告，平成 21 年度事業計画案，収支予算案等を審議し，平成 21 年度役員の選任等を行う。通常総会終了後，総会報告会および表彰式を開催し，日本油化学会名誉会員およびフェローの推戴，功績賞および平成 20 年度学会賞等選考結果等について報告し，表彰する。つづいて講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成 21 年度理事会の開催予定数は 5 回。平成 21 年度会長，副会長，常務理事の選任，運営委員長，各業務委員長および支部長等の選任，諸事業計画の企画・実行，平成 21 年度収支決算案および平成 22 年度収支予算案の作成等，重要案件について審議し，決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定数は 6 回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は，理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが，さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は，公益法人認定の申請に伴う定款変更および諸規定の改定作業をサポートし，会員の表彰に関する見直し，ホームページの充実等をはかる。財務委員会は，きびしさを増した経済情勢のもとに財政基盤の健全化に努める。企画・部会統括委員会は，アドバンスセミナーの内容にさらなる検討を加えて実施する。国際交流委員会は，AOCs の 100 回記念大会への対応を準備する。オレオサイエンス編集委員会は，会員のニーズにあった会誌づくりに務める。規格試験法委員会は，新しい分析試験法の検討を進めるほか，試験法セミナーをひきつづき実施する。常設の委員会のほかに，公益法人認定申請の準備を行うワーキンググループおよび WCOS2011 の開催準備を進める組織委員会の活動を本格化する。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第 10 回を迎えるフレッシュマンセミナーは、5 月には『油脂と脂質』について、6 月には『界面科学と界面活性剤』についてそれぞれ開催し、日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。11 月には第 9 回基準油脂分析法セミナーと第 7 回界面活性剤・試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の定着を図る。

2.2 支部活動

各支部による講演会・セミナー等は、例年に倣い開催するが、支部の特徴を生かす工夫を行う。また支部活動の一環である地区講演会（油脂工業会館共催）は佐世保市（関西支部）、仙台市（関東支部）、鈴鹿市（東海支部）および奈良市（関西支部）の 4 ヶ所で開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に展開したい。

2.3 専門部会活動

専門部会については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会に加えて新たに発足した食品油脂機能構造部会の 7 部会体制の運営を実施する。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化を図る。油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性を意識し部会活動の活性化を図ると共に、独立採算制による活動基盤の強化に努める。

2.4 会誌

論文誌「Journal of Oleo Science (JOS)」と会員誌「オレオサイエンス」を各 12 号発行する。「JOS」は Preface 等の記事等を通じ、国内外研究者からの積極的な原著論文投稿を募る。また、国際誌としてのインパクトファクター値および知名度向上に努める。「オレオサイエンス」は、「膜の最先端研究と工業製品への応用」に関する中特集などの特集企画 9 件および総説 3 件を各号へ掲載し、文献抄録、Q&A など会員への情報提供の充実、投稿規定の見直しや会員・編集委員の参画を推進するなど、魅力ある会誌づくりに努める。

2.5 日本油化学会年会

平成 21 年度第 48 回年会は、多賀圭次郎実行委員長（名古屋工業大学しくみ領域）のもと、名古屋工業大学鶴舞キャンパスにおいて、9 月 10 日（木） - 12 日（土）に開催する。受賞講演、一般発表（口頭およびポスター）、専門部会主催のランチョンシンポジウム等を行う。